

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500065		
法人名	医療法人社団 孔和会		
事業所名	グループホーム 桜ん里		
所在地	天草市河浦町白木河内116-1		
自己評価作成日	令和3年1月4日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	令和3年3月2日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症」に対する専門的なプロとして、ご利用者様やその家族の方々に安心して頂ける環境作り、また地域密着型サービス事業所として、地域の方々への情報発信を「桜で楽さ会(家族会)」や運営推進会議、体操教室などで行なっています。桜ん里の理念である「今を心地よく私が私らしくある為に」を実現するべく職員もプロとしての自覚を持つ一方、日頃から学びの姿勢を持ち日々変化する認知症の方々への柔軟な対応、関わりがもてるよう努めています。終末期においては、その人がその人らしく最後まで過ごせるようご家族と情報提供し合いながら、出来る限り一緒に時間を過ぎて頂き穏やかな最後を迎えられるように取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「今を心地よく 私が私らしくあるために・・・」を支援の基本としている。認知症の周辺症状を丁寧に観察し、一人ひとりの困りごとを探求し、チームで検討して入居者が心地よく生活できるように支援している。また、地域密着型事業所として地域との交流を行い、地域の福祉ニーズや高齢者の課題の把握に努め、事業所でできる地域貢献に努めている。  
管理者は、2020年7月の球磨・人吉地域豪雨災害のボランティアとして現地に赴いており、現場で学んだことを将来の災害に活かしたいとしている。9月の台風接近時は、入居者と職員全員が強固な建物に避難する訓練を実施している。計画だけではなく実践して課題を発見し、災害に備える意識が高いことが伺えた。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、定期的カンファレンスの時に、理念をふまえた介護が実践出来ているかを振り返り、日々の介護に活かすようにしている。	開設時の職員が、ホームの目指すケアを「今を心地よく 私が私らしくあるために・・・」と理念に定め、共有して拠り所としている。職員は、入居者一人ひとりの日々の様子を観察し、記録に残してチームで検討し、その人らしさの発見に努め、理念の実践に取り組んでいる。	理念はホーム内の共有スペースやトイレ内に掲示して、職員への浸透を図っている。今後は、さくら新聞等にも記載することで、職員の意識も更に高まると共に、家族や運営推進会議委員、地域の人々等にも浸透し、ホームへの信頼が益々高まると思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の感染予防にて地域活動の神社清掃活動や施設行事などへの参加は、市内の感染状況をみながら参加を行っている。	地域密着型事業所として地域行事・区役への積極的な参加や、ホーム主催のイベントに住民を招待する等して日常的に交流している。毎年開催しているそうめん流しや餅つき、秋のバザーの際などは地域の人々にとっても楽しいイベントとなっている。花の苗や採りたて野菜、手作りのお漬物など頂き物も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	桜新聞を通じ、認知症への理解や対応などの情報発信を行っている。推進会議も情報交換の場として活かしている。(予防対策を行い開催)また人吉の水害支援に他施設スタッフと共に向かい、被災者方達への心のケアや物資支援などを行った。今後も必要であれば出向していく予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議。入居者様の日々の様子を報告や事故報告、新人スタッフの紹介など行うとともに、推進委員様から頂いた意見はスタッフにも伝え話し合い改善対策など行っている。地域の情報を収集する場ともなっている。	運営推進会議では、ホームの状況報告を行い意見等を得ると共に、地域の福祉ニーズや高齢者の困りごと等の情報を得る場ともなっている。在宅の高齢者が抱える病院受診や買い物の不便さ等、日常的な課題について、ホームが出来る支援等を検討し実施するなど、会議での情報を地域貢献に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1人1人がお互いに声をかけ合われ、自分で出来る事は他の人の手伝いもされ、役割を持ち、生きがいとなるようスタッフも間に入り支援している。	管理者は、市へ協力してキャラバンメイト養成や、サポーター養成等で貢献している。また、小学生向けに認知症について話をすることで、子どもたちの意識に変化が生じ、「おかしいと感じた高齢者に出会った場合は、声掛けが出来るようになった」という声も出て来るなど、地域の人々の見守りの姿勢に徐々に効果が見られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ。身体拘束については、法人全体で勉強会を行うと共にケアカンファ時に拘束にあたらぬか話し合いを行っている。	ケアカンファレンスでは、ホーム内で生じた事故の内容を振り返り、事例から拘束について検討している。「入居者の想い」「スタッフの行動」「スタッフの行動に対する入居者の気持ち」等について率直な意見を出し合い、改善案を検討し拘束のない丁寧な支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自施設や法人全体での虐待防止のための勉強会や入居者様の身体の状況や表情など観察しながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は県の権利擁護推進員の研修を受講している。また権利擁護についての研修に参加し、施設の勉強会で復講を行い、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、契約の必要性(制度)やその内容について説明を行い、疑問点や質問を解決した上で締結へと結びつけている。介護改定時にも同様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来苑時や電話にて、ご本人様の様子を伝えらると共に家族の意向や意見など聴き、ご家族との信頼関係が深められるよう努力している。ターミナルケアに関しても説明、納得していただいた上でケアプラン作成としている。	「桜で楽さ会」と称した家族会を開催し、遠方の家族向けに「ふるさとの手料理を楽しむ会」を開いたり、家族と地域の人々が交流する場を作ったり、家族の相談を受けるなどして意見や要望が言い易い環境整備に努めている。現在は、コロナ禍のため一時的に面会や家族会等は中止している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なカンファレンスにて、業務に対する意見や提案の時間を設け、そこで出た内容を部署会議や管理者会議にかけ、法人全体の方針のひとつとして決定、反映させている。	入居者ごとに担当者が決められ、日々の支援に於ける課題等は担当者がとりまとめ、カンファレンスで説明し、職員が意見交換して改善案等が決められる仕組みとなっている。管理者は、職員の良い所を伸ばせるようにコミュニケーションを大切に、支援的な姿勢で育成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を年2回実施し、人事考課を用い、人材育成を行っている。どんな自分になりたいか？可視化することで各個人の目標設定と達成状況が明確となり、向上心をもって働ける職場となるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会の予定を掲示板に掲示し、受講を促したり、日々の業務の中で助言等を行い、個々のスキルアップを図るように働きかけている。また、資格取得については支援し合格へと繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種連携会議に出席したり、グループホーム連絡協議会を利用してネットワーク作りをしている。また、他施設との情報交換し、相談できる関係を築いている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族の想いを聞き、出来るだけその想いに近づけるように(不安や困ったことが軽減するよう)当施設で出来るケア内容について説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面会で、困りごと、心配事、不安な事などが無いからお聞きして、新たな要望にも理解しながら安心してご利用頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を行い、その方が何を必要としているのか必要ないのかを見極め、必要としている事を理解し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意思決定はご本人様にある事を忘れず、その方らしく日常生活を共に過して頂けるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症にて家族との面会は、ソーシャルディスタンスを取りながらであるも家族との時間を大切にされた支援に心掛けている。ターミナル期においてもご家族の希望に添えるよう、出来る限りの支援を行う様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用されたり、同地区の病院受診先で知人の方々と会話される機会を持つようにしている	同じ建物内にあるデイサービス利用者には入居者の友人・知人もおり、馴染みの関係継続の支援が可能な環境となっている。また、ホームの庭で行うそうめん流しや餅つき、バザーには近隣の人々も集い、交流の場ともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人がお互いに声をかけ合われ、自分で出来る事は他の人の手伝いもされ、役割を持ち、生きがいとなるようスタッフも間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入所の際は情報提供を行い面会や訪問を行い、ご家族との関係を維持し、相談事等への対応も行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までのご本人様の生活歴を考慮し、ご本人様やご家族の意向を確認して、思いの把握に努めている。	日曜日は炬燵の部屋で入居者と職員がゆっくり雑談しながら、思いや希望を把握できるような時間を確保している。また、日々の支援における気づき・アセスメント等は個人記録に残し、本人本位の支援となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族から情報を得たり、これまで利用されていたサービス事業所からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の日々の様子を把握し、ご本人様の出来ること、残っている能力を維持向上できるように関わりがもてるよう、定期的カンファレンス時に検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のケースカンファレンスで介護計画の評価、見直しを行なっている。またご家族に入居者様の状況をお伝えしながら意見も取り入れ、ご本人様の状況に応じ計画を終結したり、新たな課題は随時計画に追加している。	職員は、入居者の短期目標・認知症症状・ADLの状況等が記載された様式を使用し、日々の支援記録・気づき等を個人記録に残している。担当職員は支援における課題等をまとめてカンファレンスで説明し、介護計画の評価見直しに反映している。入居者の困りごとを軽減するために、生活歴・家族からの情報等も参考にして本人の思い、その人らしさを大切にケアプランを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録用紙に気付いた事やとり入れた事等の情報をスタッフ同士で共有し、介護計画に反映させ実施結果を記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の要望を一番に考える様にしている。ご家族のお泊りなども受け入れ、可能な限りご要望に添うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、地域ボランティアとの交流会、地域行事に参加していきたい。また施設で行なう行事に地域の方々を案内するなど、交流の機会を支援していく予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診察や必要があればご家族と連絡を取り専門医の受診を促している。また、受診の際は主治医に情報提供を行なっている。	かかりつけ医の継続受診、若しくは協力医への変更は利用者が自由に選択できる。協力医による訪問診察は週に2回実施されており、適切な医療を受けられる環境が整備されている。また、希望者は訪問歯科の受診も出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックや身体観察を行い、著変時は看護師に報告し状況に応じて受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーにて情報提供を行なっている。また入院先へ訪問を行い、情報交換し退院時に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明を行い、家族会でも終末期について話すなど、ご本人様やご家族の意向を聞くようにしている。重度化した場合は入居者様の状態をその都度説明し家族の意向を聞き話し合い出来る限り対応できるように努める。又家族の付き添いができる様な工夫もしている。	利用開始時に、重度化や看取りについての対応を説明し同意を得ている。状態が悪化し看取りの対応が必要となった際は、医師による説明とホームによる支援について説明を行い、家族の意思を確認している。看取り後は、遺族や職員の心に配慮しグリーフケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での全体研修において、緊急時の訓練を行なっている。また、感染症の時期には看護師を中心に施設内でも研修を行い予防に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、火災、自然災害を想定した避難訓練を消防署の協力を得て行なっている。避難場所は地域の協力を得て高台にある病院へ徒歩、車両にて避難訓練を実施している。	8月に夜間の火災を想定した初期消火・通報・避難誘導の訓練を実施している。管理者は7月の球磨・人吉地域豪雨災害の現場にボランティアとして赴き、自然災害の現場を通して学んだことをホームでの自然災害に活かしたいとしている。早速9月は、大型台風接近に備え、強固な建物の系列施設に入居者と職員全員が避難を実施している。計画だけではなく実践したことで課題が明確になり、災害時に役立つことが期待できる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導は耳元で小声で行ない他者に気付かれないようにしたり、相談等は居室で聞いたりしている。また、ドアをノックし訪室するようにしている。個人情報保護に関しては法人全体でマニュアル化し、システムを構築している。	言葉での表現が困難な人も、職員の観察や気づき等から思いを探り、その人らしさを見つけて支援することで、人格を尊重し誇りを損ねない対応となるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がしたい事は怪我や事故が無いよう見守りながら苑庭を散歩したり、ドライブに出かけたりと希望が出来るだけ叶うよう対応している。金銭面でも、少額で管理できる人には自己管理して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアや居室などご本人の居たい(好きな)場所で過ごしていただくように努めている。また無理に何かをして頂くことがないよう想いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服装でご本人様の好みの洋服を着ておられる。また、定期的に美容師の方に来て頂き散髪を行い清潔保持に努めている。足りない物は、本人の希望を取り入れご家族への連絡をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理作業では野菜の皮剥きや食材切り等入居者様の出来る事に合わせて一緒に行なっている。また苑内の畑で収穫した野菜や山菜で季節感を感じられるような食事に工夫している。	管理栄養士がたてた献立に沿って調理担当職員が料理し、職員が毎食検食を行っている。食材は入居者が職員と購入に出かけたり、ホームの畑で収穫したり、近隣の人々から頂いたりして、献立にこだわらず柔軟に変更することもある。毎月1日は変わりご飯として赤飯・お稲荷さん・野菜おこわ等が出され、入居者の楽しみとなっている。お節料理・お雛様・七夕などの行事食も提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量は業務日誌で把握し、献立を中心に提供。食事形態は、ご本人様に合わせてお粥、キザミ、ミキサー食等をトロミを使用して提供している。スタッフは1日の水分量の目安を注意しながら取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっている。義歯の状態を確認し、場合によっては歯科受診や往診にて対応している。また、口腔体操で唾液での自浄作用を期待して実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、サインを見逃さない様トイレ誘導を行なっている。また、便意や尿意のない方もトイレ誘導し、自然排泄を試みている。	個別に飲水量・排泄等について一覧表に記録してパターンを把握し、耳元で声掛け誘導して排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、食事のバランス、水分量等に気を付けている。ヨーグルトや牛乳等乳製品を提供したり、芋類の提供で排泄を誘導している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後にとらわれず、希望のタイミングを見ながら入浴してもらっている。入浴時は出来ない部分のみ介助するように心がけている。	午前・午後に分けて、本人の気分を尊重した時間帯で入浴支援を行っている。季節によっては柚子湯・菖蒲湯をしたり、下田温泉の足湯に出かけるなど、入浴を楽しむ支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅に居られた時の状態に近づけ自宅で使用していた布団や寝具を使用して頂いている。また昼の間にこたつを置いており、休息したい時は、こたつに休まれる方も居られる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている処方箋を個別にファイリングし、直ぐに確認できるようにしている。服薬支援はドラック表を使用し看護師を中心に症状把握をしながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好きな事、得意な事を把握しそれぞれに合った作業や楽しみが出来、時にはドライブ等外出し気分転換してもらえるよう支援している。買物もできる方は一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出たり、ご本人様の気持ちを代弁し、ご家族に外出の相談をし畑の見回りや仏壇へのお参りなどに出かける機会を作っている。また、季節折々の花を見学に出かけている。	これまでは、お花見に出かけて弁当を食べたり、案山子村の見学をしたり、自宅で一泊するなど、外出する機会もあった。しかし、現在はコロナ禍のため多くの外出を控えている。日頃は、ホーム近くを散歩しながら地域の人と交流したり、庭の草引き、花植えなどして季節を感じ、ストレスが軽減されるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望があれば、ご家族の了解の上、訪問販売等での品選びから支払いまでをお手伝いしながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば、ご家族に電話したり、荷物や手紙が届いた際には、連絡を入れご本人様と話してもらうなど、近況報告を兼ねて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花を生けたり、フロアの壁には、地域の方が描かれた絵手紙等を飾り和やかな環境を作る工夫をしている。トイレは掃除や換気を毎日行い気持ち良く使用出来る状態を保つようになっている。畳の間にはこたつを設置している。	日中は殆どの入居者が共有スペースで過ごしている。縁側のある畳の部屋には炬燵が置かれ、食堂兼リビングでは、テレビを見ながら入居者と職員が談笑している。季節の花や木、お雛様の壁飾りなど季節感に配慮している。台所の調理の様子・料理の匂いも感じられ、家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で過される時間を尊重しつつ、ソファで中の良い方と座ったり、畳に横になったりできる場所を提供し、ご本人様にとって居心地の良い場所の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝室には、自宅で愛用されていた時計やタンスなど思い出のある物や使い慣れた物を配置している。また、思い出のある写真を飾ったりご本人様がくつろげる空間づくりをしている。	居室は、入居者と家族の意向に沿って担当職員が支援して部屋づくりを行っている。お仏壇やテレビ、家族写真や得意の塗り絵の作品、お花や手作りの飾り物、外出用の服や帽子、スニーカー等、其々の想いに沿った品物が置かれた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には物は置かず、手すりを取り付けて、ご本人様が安心して移動できるように努めている。トイレは入口の戸に文字で表示して、そこがトイレであると分かるように工夫している。又リハビリを兼ねた壁のタッチマークで自ら歩行訓練されている。		